

令和6年度 第1回登別市地域公共交通活性化協議会 議事録 要旨

開催概要

日 時 令和6年6月24日（月） 10:00～

場 所 登別市役所 2階 議場

出席者 別紙のとおり

議事内容

1 開会

2 委嘱状交付

- ・ 人事異動等により新任された委員へ、副市長より委嘱状交付
- ・ 委嘱状交付後、副市長は公務のため退席

3 会長あいさつ

- ・ 議題については地域公共交通計画の進捗や登別温泉で運行しているグリーンスローモビリティに関する内容が主なものとなっている。
- ・ ライドシェアに関わる動きが活発化しており、札幌圏での運行開始や伊達市の事業者の動きも報道されている。また、自動運転についてもレベル4への関心が強く急速に進展している。
- ・ それぞれの情報を市や協議会として把握していく必要があると考えている。皆さまの立場からの意見を積極的にいただきたい。

4 会議の成立報告

- ・ 本日の協議会委員出席者数は13名
- ・ 委員の過半数が出席しており、登別市地域公共交通活性化協議会規約第4条第4項の規定に基づき、会議が成立していることを会長が報告

5 議事録署名委員の指名

- ・ 会長が西尾委員と木村委員の2名を議事録署名委員に指名

6 議事

(1) 登別市地域公共交通計画の進捗（令和5年度）について

【説明者】登別市地域公共交通活性化協議会事務局

- ・別紙資料に基づき内容を説明

【委員からの主な質疑等】

■A委員

質問1：令和5年度に常盤町・柏木町での市バスを使用した実証実験を実施していたと思うが、今回、その評価はされないのか。

■事務局

回答1：実証実験については目標の中に網羅されており個別には評価していない。なお、昨年度の協議会でも触れたが、令和5年度の実証実験では一定程度の利用者はいたものの既存の公共交通事業者に与えた影響が大きかったことから、どのような手法が良いか検討を深めた。資料の3頁の5には今年度、登別本町地区における公共交通空白地域の検討を行う旨記載しているが、既存公共交通事業者に配慮した手法をとりつつ検討していきたい。

■会長

質問2：常盤町・柏木町は検討課題の一部であり、市内に複数設定している公共交通空白地域のうちどこから着手するかは総体的な状況を見た中で判断すると理解してよいのか。

■事務局

回答2：ご認識の通り。

■A委員

意見1：常盤町・柏木町での実証実験が既存公共交通事業者に影響を与えたのであれば、登別本町での実証実験ではそうした事態にならないよう改める必要がある。せっかく実施したモデル事業に意味を持たせられるよう、評価を実施して方針が見えるようにすればより良いのではないかと。常盤町・柏木町の実証実験に関しては市民から「なぜやめてしまったのか」という声も聞かれるので、難しさはあると思うが住民の立場に立って進めてほしい。

■事務局

意見として承ります。

■B委員

質問3：資料上ではバスの乗り方教室を計3回予定としているが、今後の予定にはリサイクルまつりでの実施予定しか記載されていない。このままでは目標未達ではないか。

回答3：資料には記載していなかったが、今後、町内会や老人クラブ等に相談しながら、小規模ながらも実施していきたいと考えている。

【審議結果】

- ・承認

(2) 令和5年度登別市地域公共交通活性化協議会決算について

【説明者】登別市地域公共交通活性化協議会事務局

- ・別紙資料に基づき内容を説明

【委員からの主な質疑等】

■会長

質問1：支出に「グリーンスローモビリティ補助金」とあるが、補助先はどこか。

■事務局

回答1：事業の実施主体である一般社団法人登別国際観光コンベンション協会である。

【審議結果】

- ・承認

(3) 令和6年度登別市グリーンスローモビリティの運行について

【説明者】（一社）登別国際観光コンベンション協会事務局（代理：登別市観光経済部）

- ・別紙資料に基づき内容を説明

【委員からの主な質疑等】

■C委員

質問1：今年度の4月27日から5月6日までの11日間の運行で3315人とかなりの利用があるが、1便当たりには換算すると10名以上乗車されているという認識で良いか。

■事務局

回答1：ご認識の通り。

■C委員

質問2：では、当該期間に限れば令和5年度の利用者数目標の休日7.4人/便を満たせたことになる。ただ、無償運行としていたことに留意する必要がある。以降も無償運行を続けるのであれば市の負担額が大きくなると思うが見解はいかがか。

■事務局

回答2：コンベンション協会としては無償運行に当たり、経費の圧縮を検討している。また、サポーターからの収入の確保に力を入れている。加えて、昨年9件程度あった視察の受け入れを今年度も継続して行い、昨年度と同程度の収支に収まるよう考えている。

■C委員

質問3：自動運転に関わる事業者では視察受け入れに当たり、かなり高額な手数料を徴収している例があるが、グリーンスローモビリティではどの程度の金額設定としているか。

■事務局

回答3：現在はグリーンスローモビリティの運行費として料金を徴収することはできないため、コンベンション協会や市職員からのレクチャーとセットで実施し、1人当たり1,000円から1,500円を徴収し、経費に充当している。

■ C 委員

質問 4 : 金額設定がかなり安いという印象を受ける。配布資料にはサポーターからの収入についての記載もなく、収支構造の見直しに関する説明がなされていない。また、昨年度は有償運行であったものを今年度は無償運行とするのであれば、本来は協議会で説明がなされるべきであると考えがいかがか。

■ 事務局

回答 4 : ご指摘の通りである。今年度の事業に当たっては利用者数を増やすことと収支の均衡という相反する課題があり、まずは多くの方にご利用いただきたいということで無償運行としている。本件に関しては運輸支局とも協議しており、無償運行で継続性があるのか、十分に検討していきたい。

■ C 委員

質問 5 : 令和 5 年度の進捗の説明でも 3 件ほどグリーンスローモビリティに係るものがあつたが、これらの点の体制が令和 6 年度中に固まらなければ、今後の国からの補助金を得られるのかなど、事業の将来に関わってくる。資料が不足しているのではないか。サポーターとは誰を想定しているのか、関係する宿泊事業者に費用負担をお願いできないのか、あるいは宿泊費に上乗せするのかなど、相手方との関係性もあり資料に書けないこともあると思うが、料金を安価にしたり無償化する中で重要な点であるため、次回の協議会の場ではご説明いただきたい。

■ 事務局

回答 5 : 承知した。

■ 会長

質問 6 : 無償運行であったことも関係していると思われるが、利用者数が劇的に増加している。体制の変更などはあつたのか。

■ 事務局

回答 6 : 大きな変更としては、全運行にガイド担当のスタッフを同乗させていた。これにより、乗車を迷われている方に声がけしたり、乗客からの質問があつたときにより丁寧な対応ができたのが要因と思われる。また、今年度のゴールデンウィークは登別温泉を訪れた観光客自体が多かつたことも要因として挙げられる。なお、6 月 1 日から 20 日までの実績としては 1,352 人の乗車となっており、平日と休日で大きな差はあるが、休日にはかなり多くの方にご利用いただいている。

■ C 委員

質問 7 : 周辺事業者の従業員による利用もあるのか。

■ 事務局

回答 7 : 利用されている方もいる。

■ C 委員

質問 8 : であれば、福利厚生の一環として捉えられるので、各事業者に料金を課す考え方もあると思うがいかがか。

■事務局

回答 8 : 未定の話ではあるが、各事業者に所属している運転手から空き時間のある人を募り、グリーンスローモビリティの運転手に充てる形で協賛いただく案を考えている。

【審議結果】

- ・承認

(4) 令和6年度予算案について

【説明者】登別市地域公共交通活性化協議会事務局

- ・別紙資料に基づき内容を説明

【委員からの主な質疑等】

～なし～

【審議結果】

- ・承認

(6) その他

■D委員

意見：事故防止の観点で1点要望したい。基本方針の中では「目標② ライフスタイルに合わせた公共交通サービスの導入」「目標④ 既存移動手段を活用した支援体制の構築」「目標⑥ 公共交通空白地域における移動支援」の3点に関わることであるが、最近、社会的反響の大きい高齢者の事故が全道的に多く発生している状況である。免許証がない人や自主返納を考えている高齢者が日頃の生活で困らないような公共交通サービスを構築していくことが事故防止にもつながると思うので、引き続き地域住民のニーズに沿ったサービスの構築への取り組みにご協力いただきたい。

■事務局

意見として承ります

■会長

意見：今回、資料を事前に配布できなかったことは事務局側の不手際であった。事務局には、できるだけ事前に資料を配るよう対応いただきたい。

■事務局

次回以降、事前配布できるよう事務を進めます。

7 閉会